

「主体的・対話的で深い学びの実現に向けた授業改善」に係る研修会（授業研究会）を実施しました。

新たな学校教育準備
プログラム推進事業
通信 No.8

平成 31 年 2 月 5 日
教育指導課教育課程係

『主体的・対話的で深い学びの実現に向けた授業改善の視点』

國學院大學 人間開発学部 初等教育科教授 田村 学 氏

平成 31 年 2 月 1 日（金）、仙台市立榴岡小学校〈猪股 亮文 校長先生〉を会場に、「主体的・対話的で深い学びの実現に向けた授業改善」に係る研修会が行われました。当日は、猪又 麻衣子 教諭が第 5 学年特別の教科 道徳「相手の立場に立って親切に」（親切・思いやり）の研究授業を行い、その後、田村 学 教授から「主体的・対話的で深い学びの実現に向けた授業改善の視点」と題した講話をいただきました。

研修会には、仙台市内各校から 103 名の先生方が参加しました。

榴岡小学校では、今年度、道徳科を通して重点的に育成を目指す資質・能力を「自分の生活や経験と結び付けて考えたり、他者の考え方や感じ方に触れたりしながら道徳的価値について考えを深め、考えたことをこれからの生活や学習に主体的に生かそうとする。」として授業改善に取り組んでいます。

本時の授業では、重点的に育成を目指す資質・能力を育む手立てとして「（1）児童の問題意識と授業者が学ばせたい主題の重なりを大きくする。（2）児童の思考を活性化する。（3）児童が自分自身の『納得解』を持つ。」という三つの視点での授業が公開されました。

参加者からは、「児童が本音を話しても大丈夫という学級の雰囲気素晴らしい。」「発言した児童に対する共感的な反応が良い。」「授業者が児童の考えを引き出していた。」などの感想が聞かれました。田村教授からも「日頃の積み重ねと繰り返しにより、書くこと、語ることでできる児童が育っている。」とのお話がありました。



講話では、「意図的で明確な発問」や「板書の構造化」、「共感の仕方」「学びを豊かにする児童の発言の取り上げ方」「道徳的価値と子供たちの進みたい方向の見極め」「資料の取り上げ方」等が話題になりました。また、「主体的・対話的で深い学び」については、「行きつ戻りつする児童の気持ちをうまく取り上げることにより、表面的な学びから深い学びになる。」「知識を関連付けることが深い学びにつながる。」とのお話がありました。

授業をさらに良いものとするために、田村教授からのお話をはじめ、参加者、授業者等が児童の姿から授業について大いに語り合い、授業改善を目指す大変有意義な研修会となりました。

【お知らせ】

「主体的・対話的で深い学びの実現に向けた授業改善」に係る研修会（授業研究会）の御案内

日時 平成 31 年 2 月 26 日（火）13：45～16：45

場所 仙台市立北六番丁小学校

【研究授業】14：00～14：45

第 4 学年 国語科「わたしたちの生活とロボットについて考えよう」授業者：高橋 周太 教諭

第 5 学年 算数科「分数のかけ算とわり算」授業者：菊池 蓉子 教諭

【講話】15：00～16：45

「主体的・対話的で深い学びの実現に向けた授業改善」（含：研究授業への指導助言）

講師：高橋 純 氏（東京学芸大学 教育学部 准教授）

※ 申込みは、2 月 21 日（木）までに C4 t h にて教育指導課（担当：松田）へお願いします。

